

H25年度 中間評価・革新的研究調査（FS）評価（案）一覧表

【ソフト分野・中間評価】

(H24採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H25委託額 (千円)	中間評価 (案)*
24-1	1	I	研究名	熊本大学 准教授 円山 琢也	10,000	B
			都市圏交通調査・分析・予測手法の先導的プラットフォームの構築と実装			
			概要			
			スマートフォン上のアプリを使用した安価な交通調査を実用化し、平成24年度秋の熊本都市圏PT調査と連動して大規模サンプルで実行し、既存調査手法との比較・分析、高度な交通需要予測手法の実用化を目指す。			
24-2	1	I	研究名	筑波大学 教授 堤 盛人	13,000	A
			道路資本の市町村別ストック推計に関する研究開発			
			概要			
			道路資本のストック額を市町村別に推計するための方法を開発し、日本の全市町村を対象とした推計を行う。また、推計されたデータを用いて道路投資の財務・経済分析を行う。さらに、通常業務における経理処理と電子納品されるデータを用いた道路資産情報管理システムの雛形を提示する。			
24-3	1	II	研究名	東京工業大学 大学院准教授 福田 大輔	14,000	A
			道路の旅行時間信頼性の評価と運用に係る研究開発－経済便益計測手法の提案と経路誘導システムの構築－			
			概要			
			道路の旅行時間信頼性(移動の定時性)が向上したことによる経済便益の計測・評価手法を提案・検証するとともに、旅行時間の不確実性を前提とした経路誘導アルゴリズムの開発とそのシステム構築について研究する。			
24-5	5	II	研究名	埼玉大学 大学院教授 久保田 尚	7,550	C
			歩行者の表情・しぐさを利用した空間評価指標についての研究開発			
			概要			
			歩行者の心理を正確に反映した街路歩行空間の評価手法を確立するため、外部から観察可能な歩行者の笑顔や行動を評価基準とする指標を確立し、その指標を用いて映像解析技術から自動的に指標値を算出するシステムを提案する。			
24-6	6	II	研究名	名古屋大学 大学院教授 中村 英樹	13,000	A
			改良対策立案のための交差点安全性評価シミュレータの研究開発			
			概要			
			本研究開発は、交通安全対策代替案の安全性に関する定量的評価を行うための、交差点安全性評価シミュレータを開発するものである。実測データに基づき、車両と横断歩行者の軌跡・速度の変化、各種判断挙動、およびそれらのばらつきを交差点の幾何構造や制御条件に応じて確率的にモデル化してシミュレータに実装し、コンフリクトの程度を再現することで、ヒヤリハットなどの危険性を空間的に出力可能とする。			

(H25採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H25委託額 (千円)	中間評価 (案)*
25-1	6	II	研究名	東京大学 教授 家田 仁	14,000	A
			広域道路ネットワークの耐災害信頼性から観たリンクの脆弱度及び改良優先度の実用的評価手法の開発と適用性評価			
			概要			
			社会資本整備において実用的な道路ネットワークの信頼性評価手法に着目し、広域道路ネットワークの耐災害信頼性の観点から、リンクの脆弱度及び改良優先度の評価手法の開発を行う。また、東北地方をはじめとする日本各地の自然災害と空間条件の実情を踏まえた現実的な道路ネットワークの信頼性指標の特性分析に基づいてその適用可能性を評価する。			
25-2	2	III	研究名	京都大学大学院 教授 谷口 栄一	13,000	C
			物流の効率化と環境負荷の低減の両立を目指した道路政策についての研究開発			
			概要			
			大都市における貨物車交通の問題は、経済の発展・環境の改善・省エネルギー・交通安全の観点から非常に重要な問題であり、本研究開発においては、東京や大阪などのメガシティにおいて物流の効率化と環境負荷の低減の両立を目指した道路政策を立案するための貨物車交通マネジメントの方法論について研究を行う。			
25-3	6	I	研究名	東京大学 特任教授 山田 晴利	10,000	B
			事故発生位置情報を用いた事故分析総合システムの研究開発			
			概要			
			これまでの事故データでは、事故発生位置がわかるのは道路管理者がマッチング作業を行って位置情報を付与している一般都道府県道以上の道路での事故のみであり、これ以外の道路の事故発生場所は不明で、場所を特定しての分析はできなかった。2012年から全ての人身事故について発生位置が付与されるようになったので、地理情報システム(GIS)を援用し位置情報の入力支援・品質管理から分析まで網羅できる、わが国初の総合的な全国事故分析システムを研究・開発する。これは事故分析のもっとも基本的な情報基盤であり、細街路、ゾーン30等これまで十分な分析が行えなかった道路、地域を対象とした分析に加えて、ヒヤリ・ハットデータやドライブレコーダのデータとの連携、沿道の建物用途・土地利用形態・道路線形との関連分析を可能とし、「幹線道路と生活道路における事故対策の展開」に寄与する。			

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

【ハード分野・中間評価】

(H24採択・2年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H25委託額 (千円)	中間評価 (案) [※]
24-4	4	II	研究名	京都大学 教授 木村 亮	25,000	A
			概要			
24-7	7	II	研究名	九州工業大学 教授 幸左 賢二	22,500	B
			概要			
24-8	8	II	研究名	名古屋大学 教授 館石 和雄	6,100	B
			概要			
24-9	8	II	研究名	東京農業大学 教授 竹内 康	8,700	B
			概要			

(H25採択・1年目)

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H25委託額 (千円)	中間評価 (案) [※]
25-4	4	II	研究名	岐阜大学 教授 本城 勇介	9,000	B
			概要			

【ハード分野・革新的研究調査(FS)評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H25委託額 (千円)	FS評価 (案) [※]
25-5	4	II	研究名	東北大学 教授 鈴木 基行	14,000	A
			概要			

※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進 (指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

※FS評価：研究継続の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分あると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択 (指摘事項有り)	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。